

伝国の杜 こども狂言クラブの一年



「稽古納め」

平成 25 年 12 月 8 日（日）

伝国の杜こども狂言クラブは、平成 25 年 12 月 8 日（日）に稽古納めを行いました。山下浩一郎先生の指導のもと、平成 25 年 4 月から新たに習っている狂言・小舞の演目の稽古の成果を測るため、能舞台で本番さながらの稽古となりました。

翌年の稽古始めでは、中間発表会を行う予定です。中間発表会に向けて、これまでの成果をしっかりとおさらいしました。



伝国の杜能舞台での稽古の様子

伝国の杜の能舞台前には、こども狂言クラブの稽古風景を鑑賞する観客が多く見受けられました。子どもたちのセリフや謡が、伝国の杜エントランスに響き渡ります。

なかには、小さい子が立ち止まり、関心を示していました。稽古風景を鑑賞することで、こども狂言クラブに入会するきっかけになって欲しいと願います。

◆狂言「盆山」



扇をのこぎりに見立てて切る場面



手の位置に気をつけて



最初から最後まで通して稽古を行いました。冒頭のストーリーの背景を説明する重要なセリフが続くシーンは、セリフが詰まることなく、大きくハキハキと発声しており、前回の稽古からの上達を感じられます。

◆小舞「七つ子」



扇の持ち方の指導

手や顔の角度などを指導

初めに、全員で小舞「七つ子」を舞いました。次に一人ずつ舞い、細かい所を確認していきました。最後はペアになって舞い、最初から最後まで丁寧に練習しました。

◆狂言「仏師」



ペアでセリフ合わせと動きの指導を受けました。この演目はお面をつけて演技します。後半は場面の切り換えに素早い動きが要求されます。

◆小舞「風車」





「風車」の舞は、速く激しい型が続きます。特に右急回りは、体を一回転させてから着地するので、うまく舞うのは難しいです。

◆狂言「鐘の音」



最後は「鐘の音」の稽古で終わりました。一人で通して稽古しました。セリフを言いながら、型を完成させていきます。難易度が高いのですが、これまでに経験を積んできた高校生の演技は、完成度が高く、非常に感心させられます。

平成 25 年のこども狂言クラブの稽古が終わりました。平成 25 年度としては、今後、1 月にクラブ内での「中間発表会」、2 月に「上杉雪灯籠まつり」での発表会、3 月に「春休み発表会」が予定されています。発表に向けて、子どもたちの自主稽古が続きます。翌年の子どもたちの活躍も期待しています。

-
- 取材日 平成 25 年 12 月 8 日（日）
詳細：[こども狂言クラブ稽古納め](#)
場所：伝国の杜・能舞台
- 取材協力 伝国の杜こども狂言クラブのみなさん
指導者 和泉流狂言師 山下浩一郎先生
公益財団法人米沢上杉文化振興財団 伝国の杜・置賜文化ホール
- 執筆編集 置賜文化フォーラム編集員 佐藤道代